

第 141 回核融合会議 議事要旨

日 時： 平成 13 年 3 月 29 日（木） 13：30～14：20

場 所： 内閣府 本府 講堂（地下 1 階）

出席者：

【原子力委員会】藤家委員長、竹内委員

【委員】 井上座長、阿部委員、石野委員、岸本委員、宅間委員、玉野委員、苫米地委員、中井委員、藤原委員、本島委員、吉川委員

【説明者】下村共同中央チーム副所長、常松 ITER 開発室室長、若谷 ITER/EDA 技術部会主査、和田文部科学省原子力課長

【事務局】青山内閣府参事官

議題：

1. ITER 最終設計報告書（案）の国内検討について
2. その他

配布資料：

資料第 141-1 号 第 140 回核融合会議議事要旨（案）

資料第 141-2 号 「ITER 最終設計報告書（案）」に対する国内評価報告書（案）

議事概要：

（1）座長より ITER 最終設計報告書（案）が ITER/EDA 技術部会で検討され、「ITER 最終設計報告書（案）」に対する国内評価報告書（案）が提出された。本日はこれについて審議する旨説明があった。

（2）第 140 回核融合会議議事要旨（案）について、承認された。なお議事要旨に記載された JT-60 改修計画に関連し、和田原子力課長より、3 月 26 日に大学関係者と日本原子力研究所で技術検討会が開催され、今後 4 月末頃に中間報告を行い、平成 14 年度政府概算要求に向けて、とりまとめると聞いている旨、進捗状況の報告があった。

（3）若谷主査より、「ITER 最終設計報告書（案）」に対する国内評価報告書（案）について、説明がなされ、了承された。なお、主な質疑応答は以下のとおり。

- ITER/EDA 技術部会には、当事者である日本原子力研究所や共同中央チームの方が含まれているが、チェック機能がどのように行われたのか確認したい。大きなプロジェクトなので、今後、第三者評価が行われていくのか、との質問があった。これに対して、ITER/EDA 技術部会には当事者の方も含まれるが、核融合に

対して見識をもった方々の審議ということで、学問的評価をすることを基本にし、客観的な評価であったと考えている。また、第三者評価については、報告書の付帯的提案で、一部にその意味を含んでいる、との回答があった。

- P 1 0 の 4 行目の「技術部会と同様の主体・・・」の同様とはどういった意味か、との質問があった。これに対して、ITER/EDA 技術部会でも議論は行われているが、似たような組織ということである、との回答があった。
- P 2 の 1. 3 ITER の技術目標で、Q が 5 以上で非誘導電流駆動方式による定常運転を目指すとするが、努力目標という位置付けか、十分可能な目標という位置付けか、との質問があった。これに対して、技術部会としては、将来のリアクターであれば定常運転を目指すという位置付けで、現時点では 1 0 0 % 可能とは言えないが、これからデータの蓄積を行っていくことで可能と考えている、との回答があった。
- P 1 0 の 8 行目で、「その科学的健全性を・・・国際的科学評価」の「科学」という言葉を入れる必要があるのか、との質問があった。これに対して、これは元々の国際提案にあったことから「科学」という表現になったが、ITER の技術のみならず物理工学も含めた広い意味で科学という言葉を用いている、との回答があった。

(4) 事務局より 3 月 2 7 日の原子力委員会において、核融合会議および ITER 計画懇談会を審議が終了するまで存続延期することが決定されたことの紹介があった。

以上